

## 5 事業創出・地域創生活動

### 海外展開支援事業 KYOKONG NEW CERAMIC PROJECT

2016 年度「滋賀大学 香港食品商談・視察ミッション」から、香港の「食」に関して、香港の家庭や食の調査を進めてきた中で、伝統的な日本の食器を香港で販売出来る可能性を検討してきた。共働き世帯が多く、人口密度が高いため住居が狭い香港は、朝、昼、夜と外食が中心で、家庭で食事をすることが少ない。また、調理にかける時間も短いために使われる食器も少なく、食器へのこだわりが無いようにも思える。

しかし、世界でも1、2の長寿地域である香港は、健康志向の人が多く、高所得者層になるほど家庭で健康的な食事をするとされている。

つまり、香港で食器が売れにくい大きな要因は2つで、1つは外食が多いため、これはシンガポール等、アジアの地域についても同様なことが考えられる。もう1つは住居が狭くて、食器を置くスペースがないことである。

日本は、食を楽しむと共に、器を楽しむと言う文化がある。陶器や漆器を、それぞれの料理や飲み物に合わせていく、和食は和食器、洋食は洋食器、冷酒はガラスのカップに、熱燗は杯にという具合である。

では、香港やアジアの国々ではそうした需要は生まれしないのか。あるいは、今の食習慣に合った食器のニーズは無いのかという疑問から、このプロジェクトは始まった。

デザインスクールとして有名な香港理工大学デザインスクールの助教授サンデー・ウン博士の協力により、香港人が欲しいと思う、香港の生活に受入れられる食器のデザインを、香港理工大学大学院デザインスクールの学生が担当し、食器の製作を京都の陶芸家が担当することでプロジェクトはスタートした。

香港理工大学デザインスクールの学生が提案したデザインのポイントは

- ① 盛付けられた料理を分け合う中国料理の食事の仕方に合う食器で、食器を片付ける時に場所を取らない
- ② 香港は、紅茶とコーヒーが混ざった飲み物である鴛鴦茶(えんおうちゃ、広東語 ユンヨンチャー)のように、2つの異なるものを同時に味わいたいという欲求が満たされる

#### I. プロジェクトの参加メンバー

##### 【 京都 】

##### 黒川正樹 氏

信楽 雲井窯にて土鍋製作を中心に7年間修行。京都山科にて独立。全国百貨店を中心に、個展、グループ展など。日常使いの器から、縄文土器にインスパイアされた作品など幅広く制作。生命力を表現することを目指して作陶している。

##### 山口直人 氏

会社勤務の後、陶芸を志し京都の地へ。現在は、京都山科にて作陶。

## 【 香港 】

### Group 1

- CHEUNG KaiWa, Eric  
 デザインの変換、デザイン戦略とキュレーションに興味を持つ。ブランドネーション株式会社香港本社チーフデザイナー。アジア各地のクライアントとのコラボレーション経歴を持つ。
- WONG Wing Wai, Carol  
 これまでハイエンドのスタートアップ事業にてエンジニア、デザイナーとして活躍。過去8年間、設計とエンジニアリングを含む多様なプロジェクトに参加した。常に、新しいアイデアとものづくりを探求している。
- PO Hiu Yan, Winna  
 デザイン戦略を専門とし、国際的な展覧会とイベントデザイン会社で3Dアートディレクターを務める。2018年香港アートバーゼルに参加、イノベーションとマーケティングプロモーションの専門家と協力してクライアントのブランド価値を高める。
- KWAN Wai Lok  
 Lokrazy+Desing 代表 ブランド戦略とデザインソリューションを提供する。イラストレーターとして、本を出版。DIP イラストレーション競技にて優秀賞。

### Group 2

- TANG Yiu Lun, Oran  
 グラフィックデザイナー、アート教育者として活躍。ドローイングと広告デザイン制作を得意とする。かつて HKBU-SCE におけるビジュアルマーチャндаイジングの講師に携わった。文化研究、グラフィックアート、写真、メディアアートへのアプローチにおいて、非常に個性化された感性を示す。制作においては、自由な形状と現代的な要素をスタイルとする。
- LAI Ka Tsun, Ian  
 プロダクトデザイナー。現在は、家電メーカーに勤務。学生時代に、工業モデリングならびに職人として専門的・技術的訓練を積んだ。その経験から自然やクラフトマンシップに興味を持つ。自然の形やディテールからインスピレーションを受け、デザインへと昇華していく。
- CHEUNG Yat Daisy  
 ファッションデザイナー。ファッションデザイナーとイメージスタイリストとして経験を積んだ後、大学でデザイン研究と教育に携わる。自身のファッションの感性と周囲のインスピレーションを統合することを好む。作品は、主に女性的で、現代的な抽象スタイルを取り入れている。

## II. プロジェクトの流れ

### ■ 2017年2月

本プロジェクトを進めるために、アジアトップのデザインスクールと言われる香港理工大学デザインスクールとコンタクトを取るために、在香港日本国総領事館から香港理工大学関係者の紹介を受け、サンデー・ウン准教授とプロジェクトの進めかたについて打合せた。

その後、京都の陶芸家である黒川正樹氏、山口直人氏らにプロジェクトの参加を呼びかけた。

■ 2017年4月

香港理工大学デザインスクール大学院生・学部生に、このプロジェクトの説明を行い、香港理工大学デザインスクール大学院生が2つのグループに別れてデザイン提案を行うことになった。

■ 2017年7月8日

黒川氏、山口氏らが、香港理工大学デザインスクールを訪問し、プロジェクトの進め方について打合せを行う。翌日は、香港のデザインと食器の調査のため、「M+」や香港 SOGO 等の視察を行う。



香港理工大学デザインスクールでのミーティング



デザインスクール内の展示

M+ パビリオンの見学

香港理工大学での打合せ後、ウェストカオロン、m+, PMQ など香港のデザイン施設の他、香港 SOGO など食器を販売する店舗の視察を行った。

■ 2017年8月25日、26日、28日

香港理工大学デザインスクールの学生が訪日し、黒川氏、山口氏と数度の打合せを行う。学生は、陶器の知識がまったく無かったために、京都府立陶工高等技術専門学校で陶器の製作工程の説明と同校の学生が製作する教室等を見学、その後、清水焼の工房、店舗等を訪問し、職人の製作や販売されている陶器の説明を受ける。



京都での打合せ



清水の工房・店舗視察





京都府立陶工高等技術専門校

その後のデザイン提案、打合せは、LINE やメールで行われた。言葉の問題がありながら、何度も検討された作品が出来上がり、京都陶磁器会館で2018年2月23日-3月7日まで、黒川氏、山口氏が作品展を開催された。



京都陶磁器会館



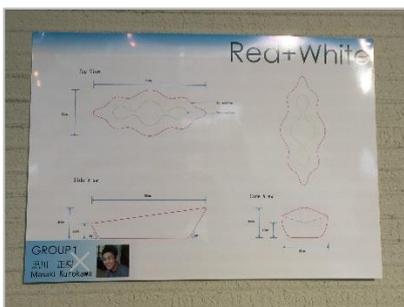
来場者に説明する山口氏



お銚子のデザイン



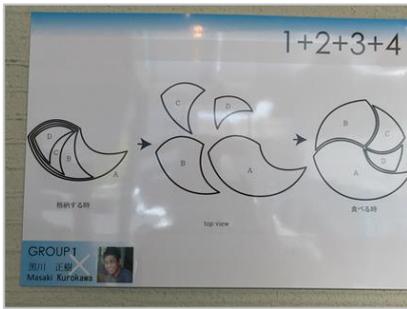
山口氏の作品



香港の花をイメージしたデザイン

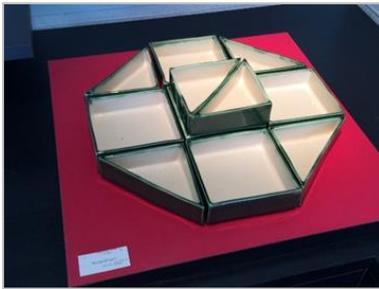


黒川氏の作品



盛付と収納の美しさを考えたデザイン

黒川氏作品



このプロジェクトは、黒川氏、山口氏が、多忙な仕事の中で、前向きに取り組んで頂き、作品として出来上がった。言葉や考え方の違いの中で、特に、学生のデザインは手作業で行う伝統産業にはむかない点もあったが、生活の異なる中での提案は日本人では考え付かない点もあった。意匠権やデザイン料の支払方法など多くの課題を解決する必要があるが、伝統産業製品の海外販路を拡大するためには、こうした取組みを、国や自治体で継続的に進めていく必要があると考えている。

(文責 特任教授 近兼 敏)

**アジアデザインを、香港若手デザイナーと考える “DESIGN & MARKETING” セミナー**

・ 2017年8月26日(土) 9時30分~12時 ・ 滋賀大学大津サテライトプラザ

香港理工大学デザインスクール大学院生は、香港でグラフィック、ファッション、プロダクトに関わる若手デザイナーでもあり、彼らが講師となり、滋賀のデザインに関係する人たちや自治体関係者と、これから大きな市場となるアジアのデザイン市場に向けて、「Design」と「Marketing」がどんな関係を持ち、製品を作っていくのかを考えていくセミナーを開催した。

・ 参加者数 15名